

CS だより

日本キリスト教団逗子教会
牧師 小宮山剛
校長 渡辺 信

聖書のことば

『あなたがたは地の塩・・・世の光である・・・。』マタイによる福音書5章13-14節
塩はミネラル分として体に必要ですし、また食べ物の味付けをし、腐るのを防ぐなどの働きがあります。光は周囲を照らし明るくします。そのように私たち一人ひとりもこの世に味を付け、世界を照らしていく存在なのです。私たちは生まれた瞬間から、この「地」で、そしてこの「世界」でその使命を果たすよう神から望まれているのです。注目したいのは、イエスは塩や光に「なれ」とは言っていません。そう、もうすでに私たちはこの世の塩や光、つまり神の子どもなのです！
(『イエスのことば100』より)

蒸し暑い上に、新型コロナの影響で落ち着かない日が続きますが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？逗子教会CSは、7月も、合同礼拝とそのライブ配信を行なっています。1週目の礼拝では、今まで通り、その月の誕生会を行い、お祝いをしています。楽しいおやつ時間は、しばらくおあずけですが・・・。感染防止対策をして待っていますので、体調に心配のないお友だちは、教会と一緒に礼拝を守れるとうれしいです。

夏のおたのしみ会のお知らせ

日時:8月1日(土)9:30~11:30
場所:逗子教会

こひつじクラスからナイドクラス(高校生)まで、すべてのCSのお友だちが集まって、楽しい時間を過ごしましょう。

内容は、次号のCSだよりでお知らせしますので、楽しみに！



(新型コロナウイルスの状況によっては、変更になることもあります)

~~~~~ここからは、礼拝でのお話です~~~~~

7月5日の説教から 『苦難と神様のご計画』

新約聖書：使徒言行録16章6~10節  
こどもさんびか：119『しゅにしたがうことは』  
プレイズソング：31『幸い』



今日の聖書箇所は、パウロ一行が伝道旅行で、マケドニアに向かうきっかけとなる、神様のご計画が示される出来事のお話です。

パウロの2回目の伝道旅行は順風満帆ではありませんでした。イエス様の弟子たちは、みんな、主のみ御言葉を伝えようと意欲に燃えていたに違いありません。でも、パウロは、思いを同じくするバルナバと、マルコの同道で意見が合わず、バルナバとは別行動をすることになるのです。パウロは、過去の伝道旅行で、自分たちから離れたマルコの同道に反対して、同行しようとするバルナバと対立してしまったのです。パウロ達は、西北西に、バルナバは西南西のキプロス島に向かうのです。

パウロ達は、その後も長い道のりを旅するのですが、今のトルコ領になる当時のアジア州、ピテニア州では、主から伝道を許されないという状態が続きました。自分たちは使命感に燃えているのに、なぜ、伝道がすぐにできないのかときっとイライラしたことでしょう。バルナバのこと、伝道のこと、なかなか、物事はすんなり運びません。みなさんも、物事が思い通りに進まない、失敗するなどの経験をしているのではないのでしょうか？

私もそうですが、行き詰まったり、失敗したりしたとき、  
「どうしてこんなことに？」  
「神さま、どうしてこんなことをなさるのですか？」



「どうして助けてくださらないのですか？」

と言いたくなる時もあるし、そう口にしたりもします。正直な気持ちです。でも、パウロには、神様が聖霊を通して、パウロたちの伝道の順序、神のご計画を示されたのです。それが、夢に出てきたマケドニア人の救いを求める姿でした。これは、まわり道のように、主のご計画になった必要な道なのです。しかも現在の地図では、トルコを越えて、北部ギリシャになるマケドニアのフィリピ等まで、伝道に行くことになるのです。いきなり遠い場所での伝道となったのです。

さて、みなさんも物事が進まない経験があると思いますが、私もありました。その一例をご紹介します。銀行に就職して勤め始めてから、国際的な関連のお仕事が今後重要になると思って、英語など勉強を始めました。そして、海外への勤務の希望を出していましたが、全くそういうことにはならずにはなりました。でも33歳位の時に、投資の仕事をやっていた私ですが、突然、イギリスのロンドンの支店の人々に英語で、仕事の関係について、毎週、日本の事情を説明するようにとのお話を戴き、それがきっかけで、続けていた英語も更に上達し海外出張などもいただくようになりました。40代半ばで外国の企業からスカウトのお話があり、海外生活経験もない私ですが、そこから、イギリスとアメリカの企業で働くことになりました。英語を習い始めたときには考えられない物事の達成でした。途中、希望がかなわないときは、落ち込んだり、やけになったりしたのですが、結局、まわり道でしっかりと基礎を固めさせて、漸くことが運んでいく、神様のご計画そのものだと思っております。



すぐに叶うものではありませんが、信じて努力していれば、かならず、次のステップが待っています。そのよい時期というのは、主が我々をよくご覧になっていて、決めて戴いているのではないのでしょうか？

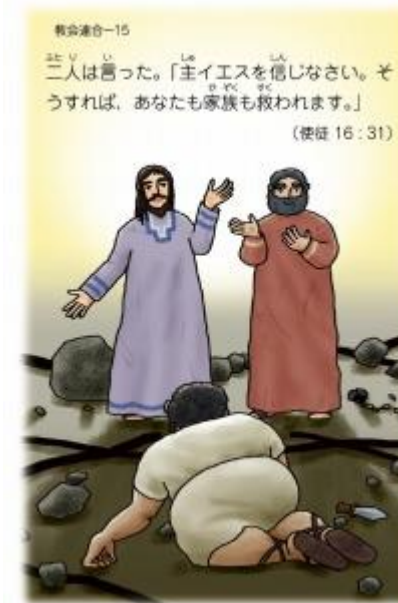
神様には、私たち人間には計り知れないご計画があります。

困難な状況でも、必ず主の計画を信じて歩んでいきたいですね。

<川上 敦>

最初に書いたみことば（御言葉）は、その牢獄でのできごとです。パウロ達は、理不尽なことで牢屋に入れられてしまいました。パウロ達は頭を抱え悩んでいたのでしょうか？後悔していたのでしょうか？どれも違いました。讚美歌を歌い神さまにお祈りをしていたのです。他の囚人たちはこれに聞き入っていました。

その時、突然大地震が起こり、牢屋の扉がすべて開きすべての囚人の鎖も外れました。看守は「もうだめだ...」と思い剣を抜き自分の方へ向けました。この時代、囚人が脱走してしまった場合、その囚人が受けるべき刑を、逃した看守が受けることになっていました。しかしその時大きな声が聞こえました。パウロの声です。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」真夜中にも関わらず、二人の周りに明るい光があふれていました。



看守は思いました。この人達は、きちんと取り調べもされずにひどい傷を負っていたのに神さまを賛美していた。「この人達の信仰は本物だ！この人たちの信じている神さまこそ、真の神さまだ！」と思いました。そして「救われるためにはどうすべきでしょうか？」と言いました。パウロとシラスは答えます。「主イエスを信じなさい。そうすればあなたも家族も救われます。」そして看守も家族も洗礼を受けました。イエスさまの十字架によって罪を赦されて家族とともに神さまを信じる者となったことを喜び合いました。

今日のみことば（御言葉）は、私たちに神さまを信じる素晴らしさを伝えています。この言葉をこころにとめ、新しい1週間も神さまとともに歩んでいきたいと思っております。今週も神さまがみなさんとともに歩んでくださり、そして守ってくださいますようにお祈りしています。

<石井 櫻子>

7月12日の説教から『賛美と祈り』

新約聖書：使徒言行録 16 章 25～34 節  
こどもさんびか：58『どんなにちいさいことりでも』  
プレイズソング：17『いつもよろこんでいなさい』

「主イエスを信じなさい。そうすればあなたも家族も救われます。」(使徒言行録 16:31)これは、今回の説教の中心聖句です。今回は使徒言行録 16: (16～)25～34 が聖書箇所となります。ぜひ聖書を開き、このCS だよりを読んでもらえたら嬉しいです。

前回に引き続きパウロ達は旅行を続けていました。パウロとシラスは、フィリピの町でイエスさまの救いの道を人々に宣べ伝えて（のべつたえて）いました。パウロ達はそこにいた、占いの霊に取り憑かれていた女の人から霊を追い出しました。しかし、この女の人のお金を使って金儲けをしていた主人は金儲けができなくなったことを怒りそして訴え、パウロ達を牢屋に閉じ込めてしまいました。



[\\* 逗子教会 CS についてのお問い合わせはこちらへどうぞ！](#)

電話：046-873-8724 ファックス：046-854-7712 メール：[cs@zushikyokai.holy.jp](mailto:cs@zushikyokai.holy.jp)